



国際標準論理文章能力検定
International Standard Competency
Test of Logical Thinking

Level 8-9

2013年度 第3回

問題用紙

検定開始の合図があるまで問題を開いてはいけません。

まず、下記の注意をよく読んでください。

●検定上の注意●

1. 検定時間は60分です。
2. 検定開始前に答案用紙に受検番号・氏名・生年月日を必ず記入してください。
3. 検定が始まって、印刷が見えにくかったり、ページがおかしかったりしたら、
かんとくしゃ
手をあげて監督者に知らせてください。
4. 問題のあいているところは自由に利用してください。
5. 問題は、答案用紙と一緒に回収します。

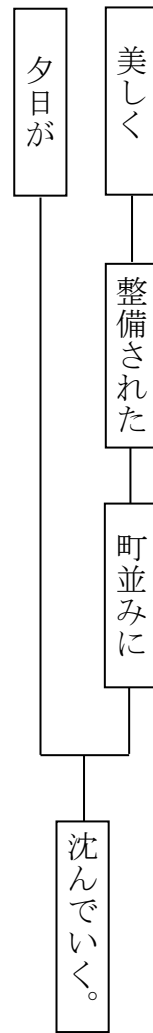
一般財団法人 基礎力財団

問題Ⅰ 次の問いに答えなさい。

第一問 次の文章は、後の構造図のどれに当たるか、例にならつて、最もふさわしい図を、次のア～オの中から、それぞれ一つずつ選び、記号で答えなさい。

【例】美しく 整備された 町並みに

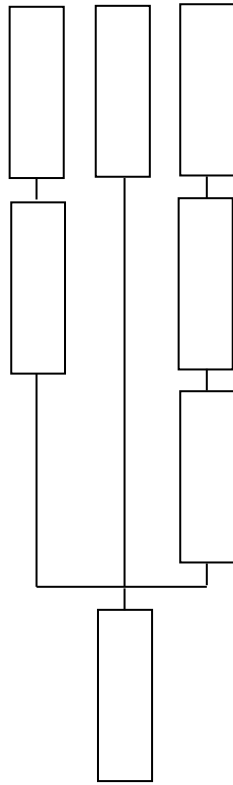
夕日^{しず}が 沈んでいく。



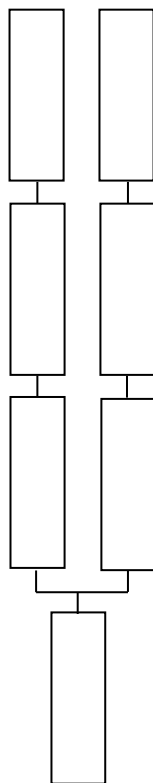
(1) 自由とは 自分で 責任を 持つ 能力の ことで ある。

(2) 雨 上がりの 朝、 空には 見事な 虹^{にじ}が かった。

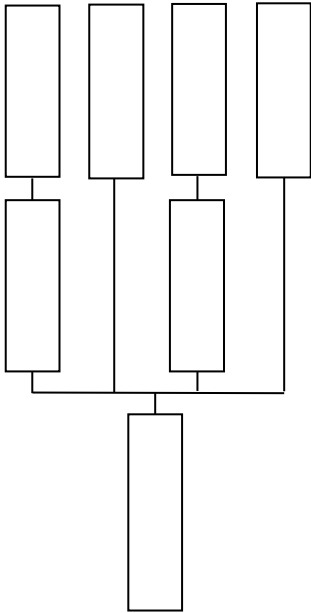
ア



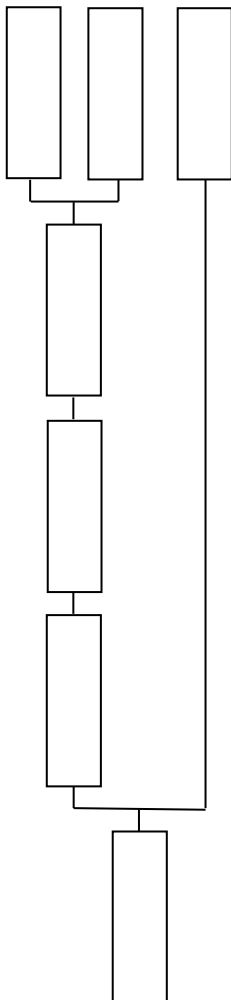
イ



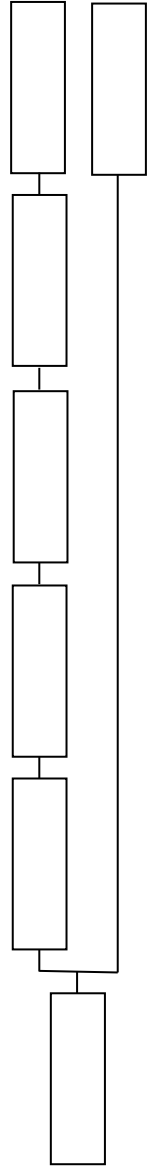
ウ



エ



オ



第二問

——線部の主語を二字で抜き出しなさい。

池の中に咲いているはすの花は、みんな玉のようにまっ白で、そのまん中にある金色のずいからは、何ともいえないよい匂いが、絶間なくあたりへあふれております。

芥川龍之介「蜘蛛の糸」

第三問

——線部の述語を五字以内で抜き出しなさい。

やがておしゃか様はその池のふちにおたたずみになって、水の面をおおっている蓮の葉の間から、ふと下のようすをご覧になりました。この極楽の蓮池の下は、ちょうど地獄の底に当っておりますから、水晶のような水をすきとおして、三途の河や針の山の景色が、ちようどのぞきめがねを見るように、はっきりと見えるのでございます。

芥川龍之介「蜘蛛の糸」

第四問

次の文章の（ ）に入る接続語を A ～ G の中から選び、その説明として最も適切なものを、後のア～カの中から選び、記号で答えなさい。

- (1) 私はお金を得た、（ ） 名声まで得た。
- (2) 君の話は矛盾むじゆんしている。（ ） 、僕はそれを信じない。
- (3) 文系か、（ ） 理系か、早く進路を決めなさい。
- (4) すべてが順調にいくはずだった。（ ） 、突然とつぜん、問題が生じた。
- (5) 僕は君のことを信用しない。（ ） 、嘘うそをつくからだ。

A たとえば B しかし C だから D つまり E なぜなら
F しかも G または

ア 前文の理由が、後文となっている。

イ 後文の原因が、前文となっている。

ウ 前文を前提に、後文を付け加えている。

エ 前文か後文のどちらかを選択する。

オ 具体例を紹介している。

カ 前文の話の流れをひっくり返している。

第五問

次の文章にはいずれも表現上適切でないところがあります。その理由を、後のア～カの中からそれぞれ一つずつ選びなさい。

- (1) 選挙で投票しないことは自ら主権は放棄ほうきしたことになる。
 - (2) 枯れ木かも山のにぎわい、ぜひこの会にご出席下さい。
 - (3) 物事には初めの第一歩が大切だ。
 - (4) 友達は帰っていなかった。
 - (5) 私はグループをまとめるのは君の仕事だ。
- ア 言葉のつながりが間違っている。
- イ 同じ意味の言葉が二度使われている。
- ウ 慣用句の使い方が間違っている。
- エ 文の意味が二通りに読み取れる。
- オ 文全体の主語と述語の関係が間違っている。
- カ 助詞の使い方が間違っている。

問題Ⅱ

次の文章は森鷗外の「山椒大夫」という作品です。幼い安寿と厨子王は人買いにだまされて、山椒大夫の元に売られてしまいました。文章を読み、後の問いに答えなさい。

ある日の暮れに二人の子供は、いつものように父母のことを言っていた。それを二郎が通りかかって聞いた。二郎はやしきを見回って、強いやつが弱いやつをしいたげたり、いさかいをしたり、盗みをしたりするのを取り締まっているのである。

二郎は小屋には行って二人に言った。「父母は恋しゅうても佐渡は遠い。筑紫はそれよりまた遠い。子どもの行かれる所ではない。父母に会いたいなら、大きゅうなる日を待つがよい」こう言って出て行った。

①ほど経てまたある日の暮れに、二人の子供もは父母のことを言っていた。それを今度は三郎が通りかかって聞いた。三郎は寝鳥を取ることが好きでやしきのうちの木立ち木立ちを、手に弓矢を持って見回るのである。

二人は父母のことを言うたびに、どうしようか、こうしようかと、会いたさのあまりに、あらゆる手立てを話し合って、夢のような相談をもする。きょうは姉がこう言った。「大きくなってからでなくては、遠い旅が出来ないというのは、それは当り前のことよ。(1) (2) (3) (4) (5) それから佐渡へお母さまのお迎えに行くがいわ」三郎が立ち聞きをしたのは、あいにくこの安寿のことばであった。

三郎は弓矢を持って、つと小屋のうちにはいった。

「こら。おぬしたちは逃げる談合をしておるな。逃亡の企てをしたものには烙印をする。それがこのやしきの掟じゃ。

赤うなつた鉄は熱いぞよ。」

二人の子供もは真っ青になった。安寿は三郎が前に進み出て言った。「あれはうそでございます。弟が一人で逃げたつて、まあ、どこまで行かれましよう。あまり親に会いたいのので、あんなことを申しました。こないだも弟と一しよに、鳥になつ

て飛んでいこうと申したこともございませう。出放題でございませう」

厨子王ずしおうは言った。「姉さんの言う通りです。いつでも二人で今のような、出来ないことばかり言いつて、父母の恋こいしいのを紛まぎらわしているのです」

三郎は二人の顔を見比べて、しばらくの間黙だまっていた。「ふん。うそならうそでもいい。おぬしたちが一しよにおつて、なんの話をするということをおれがたしかに聞いておいたぞ」こう言つて三郎は出て行つた。

その晩は二人が気味悪く思いながら寝ねた。それからどれだけ寝ねたかわからない。二人はふと物音を聞きつけて目をさました。今の小屋に来てからは、燈火ともしびを置くことが許ゆるされている。そのかすかなあかりで見れば、枕まくらもとに三郎が立っている。

三郎は、つと寄つて、両手で二人の手をつかまえる。そして引き立てて戸口を出る。青ざめた月を仰あおぎながら、二人は目見えのときに通つた、広い馬道うまぢうを引かれて行く。はしを三段登のぼる。ほそどのを通る。回り回つてさきの日に見た広間にはいる。

そこには大勢おほせいの人が黙だまつて並んでいる。三郎は二人を炭火の真つ赤におこつた炉ろの前まで引きずつて出る。二人は小屋で引き立てられたときから、ただ「ごめんなさい、ごめんなさい」と言つていたが、三郎は黙だまつて引きずつて行くので、しまいには二人も黙だまつてしまった。炉ろの向い側にはしとね三枚をかさねて敷しいて、山椒さんしやうだゆう大夫がすわっている。大夫だゆうの赤顔が、座の右左に焚たいてある炬火ともしびを照りかえして、燃えるようである。三郎は炭火の中から、赤く焼けている火ばしを抜き出す。それを手に持つて、しばらく見ている。初めすきとおるように赤くなつていた鉄が、次第に黒ずんで来る。そこで三郎は安寿あんじゆを引き寄せて、火ばしを顔に当てようとする。厨子王ずしおうはその肘ひじにからみつく。三郎はそれをけ倒たおして右の膝ひざに敷しく。とうとう火ばしを安寿あんじゆの額あたまに十文字に当てて。安寿あんじゆの悲鳴あはれが一座の沈黙ちんもくを破やぶつて響ひびき渡る。三郎は安寿あんじゆをつき放して、膝ひざの下の

厨子王ずしおうを引き起し、その額にも火ばしを十文字に当てる。新たに響く厨子王ずしおうの泣き声が、ややかすかになった姉の声に交じる。三郎は火ばしをすてて、初め二人をこの広間へ連れて来たときのように、また二人の手をつかまえる。そして一座を見渡したのち、広い母屋を回って、二人を三段の階の所まで引き出し、凍った土の上につき落す。二人の子どもはきずの痛みと心の恐れとに気を失いそうになるのを、ようよう堪え忍んで、どこをどう歩いたともなく、三の木戸のこやに帰る。臥所ふしどの上に倒れた二人は、しばらく死骸しがいのように動かずにいたが、たちまち厨子王ずしおうが「姉さん、早くお（ a ）様を」と叫んだ。安寿あんじゆはすぐに起き直って、肌はだの守袋まもりぶくろを取り出した。わななく手に紐ひもを解いて、袋ふくろから出した仏像を枕まくらもとにすえた。二人は右左にぬかずいた。そのとき歯をくいしばってもこらえられぬ額の痛みが、掻き消すように失せた。掌てのひらで額なを撫なでてみれば、きずは痕あともなくなった。はっと思つて、二人は目をさました。

二人の子どもは起き直つて夢の話をした。同じ夢を同じときに見たのである。安寿あんじゆは守本尊しゅほんぞんを取り出して、夢で据すえたと同じように、枕まくらもとに据すえた。二人はそれを伏し拝おがんで、かすかな燈火ともしびの明りにすかして、地藏尊※⑤の額※④を見た。白毫※⑤の右左に、鑿※⑥で彫ほつたような十文字のきずがあざやかに見えた。

※① 烙印らくいん…鉄の印を焼いて物に押しあてること。バツとして、罪人の額などに行つた。 ※② 馬道めどう…馬をひきいれるようにした長い廊下ろうか。

※③ ほそどの…廊下ろうか ※④ 臥所ふしど…寢室しんしつ。寝るところ。 ※⑤ 白毫びやくこう…仏像の眉間みけんにある小さな丸いもので、白く長い毛が右巻きに丸まってできている。

※⑥ 鑿たがね…金属を切断したり、彫ほつたり、削けずつたりするのに用いる工具。

第一問 —— 線部①とはどういうことか。本文から推測すいそくして答えなさい。

第二問 (1) () () (4) () に入るセリフを、次のア、エの中からそれぞれ選びなさい。

ア　そしてさきへ筑紫ちくしの方へ行つて、お父さまにお目にかかつて、どうしたらいいか伺うかがうのだね。
イ　だがわたしよく思つてみると、どうしても二人一しよにここを逃げ出しては駄目だめなの。
ウ　わたしたちはその出来ないことがしたいのだけわ。
エ　わたしには構かまわないで、お前一人にで逃げなくては。

第三問

——線部②とあるが、具体的にどこに行こうと思つたのか、地名を二つ、それぞれ二字で答えなさい。

第四問

(a) に入る言葉を、本文中から漢字二字で抜き出しなさい。

第五問

問題文の内容に一致しているものを、次のア～カの中から二つ選び、記号で答えなさい。

- ア　二郎は父母に会いたいたいなら、大きくなるまで待てと忠告した。
イ　安寿あんじゆと厨子王ずしおうが逃げ出す相談をしていたのを、二郎に聞かれてしまった。
ウ　安寿あんじゆと厨子王ずしおうは額ぬかに焼けた火ばしを十文字に当てられた。
エ　安寿あんじゆと厨子王ずしおうは同じ時に同じ夢を見た。
オ　安寿あんじゆと厨子王ずしおうは痛みと恐れのために気を失つてしまった。
カ　夢の中でお守りの地蔵の額ぬかに十文字のきずができていた。

問題Ⅲ

次の問いに答えなさい。

第一問

次の語句を並べかえて文章を作ったとき、不要な言葉が二つずつあります。それぞれ答えなさい。

- (1) なければ 私は 入学試験を 偏重へんちゆうの ならない 改め 知識 まるで
(2) 彼かれの なった まるで 見えない 優しい 言葉が そばに 励はげましと

第二問

次の文は言葉が足らず不完全な文章です。その抜ぬけている言葉を答えなさい。

- (1) 調査の結果から、朝ご飯を食べない人が多い。
(2) 休みの日には私は本を、弟はゲームをしています。

第三問

次の①②の文を合わせて一つの文章を作りなさい。ただし、適切な助詞を補うこと。

- ① 評論は論理的に書かれた文章である。 ② 評論は論理的に読まなければならない。

第四問

次の①の文の中に②を加えて一つの文章を作りなさい。ただし、新たな言葉を加えてはいけません。

- ① 私の愛読書は、夏目漱石なつめそうせきの「こころ」である。 ② 夏目漱石なつめそうせきの「こころ」は何度読んでも感動する。

第五問 次の文章の要点を二十五字以内で要約しなさい。

芥川龍之介は「侏儒の言葉」の中で、次のようなことを書いている。

クレオパトラの鼻が曲っていたとすれば、世界の歴史はそのために変えていたかも知れないとパスカルは言ったが、実は人は恋愛すると恋人をありのままに見ることをしなくなるものである、と。

たとえ、クレオパトラの鼻が曲っていたとしても、恋人のアントニイは努めてそれを見まいとしたらうし、見ずにはいられない場合もその短所を補うべき何か他の長所を探したに違いない。

だから、世界の歴史は変わることはなかったはずである。恋とはそういうものである。

第六問 次の文章の要点を三十五字以内で要約しなさい。

ある小説家が、彼女は日本一の美女だと形容したとする。読者はそれぞれの脳裏で日本一の美女を思い浮かべるわけだが、実際にこれをテレビドラマで表そうとしたら話は別だ。どんなにオーデションをしたところで、選ばれた人が果たして日本一の美女だと言えるだろうか。翌日になれば、さらに美しい人が現れるかもしれないのだ。

しかし、言葉は映像では表現できないことを表現することができる。そういった意味では、言葉は顔に似ている。顔はいくつかの道具だけでその人の内面をも表現することができる。言葉もいくつかの単語の組み合わせで人の内面を表現することができるのだ。

問題IV 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

A 都会では早朝にゴミをあさるカラスの姿をよく見かける。その「カアカア」という鳴き声は耳障りみみざわで、「さえずり」とは呼ばれない。(a)、ウグイスの「ホーホケキョ」という声や、カナリアやジュウシマツの美しい鳴き声は、我々の耳にも心地よく、「鳴き声」と呼ばれる。

B 鳥の喉のどは、ヒトの喉のどと同じように器官が二股またに分かれて気管支になって、両方の肺へとつながっていくのだが、声を出すところは、ヒトよりずっと下の方、二股またに分かれるあたりに位置している。そこに声を出すことにかかわる膜が二本の気管支の左右に一つずついている。これは、鳥は(1)と違って、左右の気管支からの空気を別々に使って二つの音を同時に出せることを意味する。(b)、カナリアやロビンなどは、左右の鳴管※①めいかん、ヒトでいう咽喉※②いんこうのそれぞれから二つの音を別々に出し、その上の器官のところでも二つの音を混ぜて、たいへん美しい複雑なさえずりを発する。彼らが、左右の鳴管めいかんをそれぞれ(2)に使用していることは、左右の膜のそれぞれに脳からの舌下神経※③せつかが分布していることからわかる。この神経のどちらかを切ってしまうと、さえずりの音の一部が消えて、歌が(3)になってしまうことが実験によって確かめられている。

C 人間が言葉を話せるのは、喉のどと声帯の構造が言葉の発生に適していて、脳に言葉をつかさどる部分があるためである。イヌやネコが、人間の言葉のようなものを話さないのは、喉の構造がそれに適していないことと、脳の中に(4)を生み出す部分がないことの両方が原因となっている。それは鳥のさえずりでも同じで、鳥がさえず

りを発することができるのは、鳥の喉のどの構造がそのようにできていることと、鳥の脳にさえずりの中枢ちゆうすうがあることの両方が関与している。

D 脳の構造については、さえずる鳥にはさえずりだけに特別にかかわっている脳の部分があり、さえずりを実際に生みだしたり、さえずりを記憶したりすることをつかさどっていることが実験でわかっている。

E 「さえずり」と鳴き声との違いを説明しよう。さえずりとは、かなり長く続く複雑な音声で、おもにオスが繁殖期はんしよくきに発するものを指す。それに対して、鳴き声とは、短く単純な音声で、オスもメスも発し、特に（5）が限られていないものをさす。（c）は、鳥はどのようにしてさえずりを発しているのだろうか。

※① 鳴管めいかん…鳥の声を出す器官。

※② 咽喉いんこう…人間ののど。

※③ 舌下神経ぜっか…舌したの運動をつかさどる神経

第一問 B、Eの文章を正しい順番に並べかえなさい。

第二問 （a）（b）（c）に入る言葉を、次のア～カの中から選び、記号で答えなさい。

ア だから イ では ウ 一方 エ そして オ 実際

第三問 () (1) () () (5) () に入る言葉を、次のア～クの中から選び、記号で答えなさい。

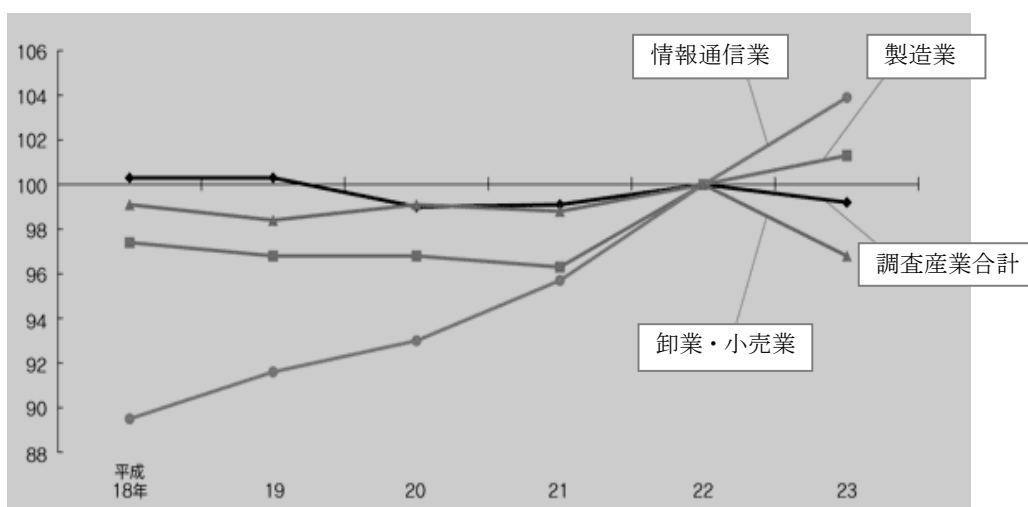
- ア ヒト イ 単純 ウ 一緒いっしょ エ 言語 オ 独立 カ 複雑 キ カナリア ク 季節

第四問 問題文の中に一か所、論理的に明らかな間違いがある。間違ったところを五文字（句読点・記号等を含む）で抜き出し、正しい言葉になおしなさい。

第五問 「さえずり」と「鳴き声」の違いを簡潔に、六十五字以内で説明しなさい。

問題 V 東京都の産業別賃金の推移を表した次のグラフを見て、後の問いに答えなさい。

東京都産業別常用労働者実質賃金指数の推移



参考 東京都の統計「産業別常用労働者実質賃金指数の推移」(2013年)

第一問 グラフの三業種のうち、賃金の増減が最も少ない産業はなにか。

第二問 このグラフは平成何年を基準にしたものか。

第三問 調査した産業全体で見たと時、平成十八年と比べて、平成二十三年は賃金が上昇しているか、減少しているか答えなさい

第四問 グラフから、最も賃金が増している産業はなにか。

第五問 平成二十三年に最も賃金が減少している産業はなにか。

第六問 グラフの各業種の賃金推移の理由について後の事実を参考に百五十字以内で推測しなさい。

- 事実① インターネットの普及により、卸業者や小売業者を通さず、直接、製造業者から購入する人が増えている。
- 事実② 情報通信業では優秀な人材を得ることがビジネス成功のカギとなる。